

「JTの森 積丹」

森林保全整備に着手



昨年11月30日にJT（日本たばこ産業株式会社）と町の間で調印された森林保全協定による森林環境保全整備事業が本格的に始まりました。

この事業は、整備が必要な町有林350haについて、同社の資金協力により、今後10年間かけて整備を行っていくもので、今年度は、美國川流域エリア内の更新伐6.3ha人工林除間伐10haを実施します。

また、長年手入れがされていない天然林の施業に関しては、森が豊かさを取り戻し、「海を育む水源の森づくり」を効果的に行うため、森に生息する昆虫や

動植物などの、生態系についての調査を実施します。

第1回森林保全活動開催

全国各地の「JTの森」では、

JT社員やその家族と所在地住民との交流活動も活発に行われており、積丹町においても、6月4日（土）、美國川流域エリアにおいて、JT社員とその家族、町民の皆さんと共に参加する第1回目の森林保全活動が開催されます。

記念すべき第1回目となる今回活動では、カラマツやシラカバの新緑が映える森林の中で、震災復興支援伐採跡地（コラム

参照）へのトドマツの植樹や、森を学ぶ森の課外授業、JTの森の散策、枝打ち体験、丸太伐り体験などの体験学習が行われます。

こうした保全活動は、今後も森林整備の様々な体験や、動植物の調査など、多岐にわたり行われていく予定です。

町の誇りである「積丹ブルー」に象徴される豊かな海は、川、そして森とつながっています。

これらが有機的に連携して積丹町がより元気になつていくよう、町民の皆さんの積極的な参加をお願いします。

コラム

震災被災地復興の礎に

「JTの森積丹」カラマツ杭丸太が被災地に向け出発

町は「JTの森積丹」、美國川流域エリアの森林整備により産出される町有林材を活用し、東北地方太平洋沖地震の被災地で不足が懸念されている仮設住宅用資材（杭丸太）を、いち早く市場へ投入することを目的に、道やJTの協力のもと、森林整備（更新伐）を前倒して実施しました。

去る4月27日には、杭丸太の原木となるカラマツを搬出する出発式が行われ、被災地復興の願いを込め、町長や出席者からの温かい拍手で送り出されました。送られたカラマツは約2,000本の杭丸太に加工され、約80戸分の仮設住宅の基礎として、被災地宮城県に届けられるほか、伐採木の販売収入の一部は被災地への義援金として送られます。



新しい教育内容で・・・

社会科副読本の全面改訂・ 外国語指導助手配置

一町教育委員会の取り組みー

小学校では、4月からすべての教科書等で新しい学習指導要領による教育が始まりました。

町教育委員会では、新しい学習指導要領の理念「生きる力を育む」のもと、子どもたちが学ぶ楽しさを実感し、主体的に学び続ける意欲や態度を身につけることができるよう、さまざまな取り組みを行っていきます。

外国語指導助手

～小・中学校へ～

小・中学校の外国語教育や国際理解教育を進めるため、5月から外国語指導助手を初めて配置しました。

5月から町内の各小学校・中学校で外国語指導助手として勤務しているルーカス・ケレハースさんは、ワシントン大学在学中に日本語、日本の歴史・文化や社会を研究し、日本文化に興味を持ったことがきっかけとなり、この度、外国語指導助手として、積丹町に来られました。ルーカスさんは『積丹町はおだやかな雰囲気が、とても気に入っています。学校で授業を行うことや日本語を勉強することが楽しいです。』と話していました。

ルーカスさんは、外国語学習のサポート役として小・中学校で授業を行うほか、生涯学習の事業など、さまざまな場面で活躍します。

外国語を実際に耳で聞き、話すことによって、これから国際化社会で生きる子どもたちの成長に役立つことを期待します。



▲ルーカス ケレハース (27歳)
アメリカワシントン州シアトル 出身

◆学力の重要な要素を育成

基礎的な知識・技能をしつかり身に付け、自ら考え、判断し、表現する力を育み、学習に取り組む意欲を養います。

授業時間が1・2年生で週2時間、3～6年生で週1時間増加し、国語・社会・算数・理科・体育の授業時間が6年間で約1割増加します。

◆授業時間の増加

子どもたちの社会性や豊かな人間性を育むため、言語教育、理数教育、伝統や文化に関する教育、道徳教育、体験活動のほか、外国語教育など、学校で学ぶ内容が充実します。

◆授業内容が充実

学習指導要領ポイント

